



やかただより

広川町
全戸配布

第100号
平成31年 2月

「やかただより」100号到達

「やかただより」は今号で100号となりました。平成22年4月に熊野享館長が就任されて発行され始めました。当初は回覧版として町内へ回されました。平成25年6月の第39号から各戸配布になりました。それまで、回覧版が回ってきた時、家でコピーをして全部置いているのです。というような話も聞いたことがありました。平成28年2月には、国立国会図書館



収集第二係から収集の対象にしたいとの連絡がありました。通常はこのようなチラシのようなものは対象外だが、資料的価値があるとのことで1号(左図は第1号です)から全部送って欲しいとのことで、

その後全部送付しています。これも名誉なことだと思います。約9年間の「やかただより」は、本当に「稲むらの火の館」の歩みでもあります。

名誉なことでは、天皇皇后両陛下の行幸啓、皇太子殿下の行啓がありました。

大きな出来事としては、「稲むらの火」は現代の教科書にも掲載されるようになりました。

「稲むらの火」の11月5日が国連で「世界津波の日」に制定され、津波防災の世界の中心施設になりました。また、昨年には広川町の防災遺産「百世の安堵」が日本遺産に認定されました。

このような大きな出来事が後から後から起こりましたが、その都度ニュースとして「やかただより」に掲載して参りました。「やかただより」は今後、200号を目ざして濱口梧陵さんの偉大な功績と津波防災の情報を伝え続けますので、皆様のご支援をお願い申し上げます。

「第10回稲むらの火講座」開催

平成26年度に始まった「稲むらの火講座」は今回第10回を迎えることになりました。この間台風のために1回だけは中止をしましたが、延べ568の方が聴講されています。すべてに参加していただいた方も数人おられます。

第10回講座は下記の通り開催いたします。

- 日時 平成31年3月10日(日)13時半
- 場所 稲むらの火の館3階
- 講師 石原凌河先生
- 演題 『災害の記憶を未来へ伝えるためにー災害を伝えるメディアに着目してー』
- 講師プロフィール

1987年京都府宇治市生まれ。
2010年関西学院大学総合政策学部卒業
2012年大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了、2014年同博士後期課程修了博士(工学)。

大阪府立大学、人と防災未来センター勤務を経て、2016年4月より、龍谷大学政策学部講師に就任して現在に至る。



広川町では、2016年度から龍谷大学、関西大学と広小学校が連携して実施する「こども梧陵ガイド」の取組を指導しています。「稲むらの火」「濱口梧陵」「広村堤防」などの話題をもとに、「稲むらの火の館」来館者にクイズをとおして、ガイドしています。

今回は、「東日本大震災」から8年を翌日に控え、津波防災の話題も提供していただけたと思います。参加定員は90人で申込順とさせていただきます。

電話 **0737-64-1760** まで参加申込をお願いします。

濱口大明神縁起を読み(その5)

濱口 擔(かわせみより)

君の筆に依って搔き起こされて死灰が燃え上がった様な私の感慨は、実に無量である。或は古き記憶を辿り、或は新しき体験を思うて、不知不識長々と書き終りました。筆を擱くに当たり、そうした機会を与えて下さった貴兄に対して、感謝の意を表する次第である。

(大正十三年十一月)

おわり

年代の問題

記者は、日本協会の最近の会合の席上で起った一事件に関し、濱口擔氏から寄せられた下記の書面を掲載することを、甚だ喜ぶものである。

『日英雑誌』記者足下。

拝啓——私は本月十三日の日本協会の席上で起った異常な事件について、足下に一書を呈上いたします。多分足下も御承知でしょうが、私が私の論文を朗読し終わって種々の質問を受けているうちに、一人の聴者は、『仏陀の畑の落穂拾い』の中にラフカディオ・ハーン氏が記載してある『ハマグチ・ゴヘイ』に、私が関係あるのでないか、と尋ねられたのでした。私は即座に、同嬢は私の父のことを云っていられるのだ、と気がつきました。然し、私はあまりに興奮し且つあまりに一種の感激の念に打たれた為に、同嬢の云ってられる言葉を聴くことさえ出来ない位でした。私は私が当然あの主人公の名や事件の年代等を明らかにし、あの物語の中の多少の誤を訂正すべきであるのを知っていました。けれども、私は一語を出すことも殆んど不可能でした。その瞬間に当っては、私はただ司会者(ディオシイ氏)に向かって、同嬢の質問は私の父を指しているのです、との旨を耳語するのが精一杯でした。会場の中の諸君は、どうして百年以前に住んでいた人間が、私が詐欺者でない限り、こんな若い息子を持ち得られるであろうか、と怪しまれたに相違ありません。不安の余り、私はディオシイ氏に向って、どうし

たらよいでしょうか、と意見をたずねてみましたところ、同氏は、足下に此の事件に就いて一書を呈するがよからう、と勧告して呉れました。で、私は今足下にこの弁解文と、『仏陀の畑の落穂拾い』の中の私の父に関する物語の二三の正誤とを、お寄せする次第であります。

幸に足下がこの事件を公表して、私の父の履歴に関する下記の詳しい記事を掲載して下さいならば、何よりのことと存じます。 敬具

ケンブリッジ・ペンブローグ大学にて、

五月十三日

濱口 擔

外国からの来館者

昨年中に外国からの来館者が大勢来られました。4月から12月までで、64カ国692人という過去最高の国から最多数の人が来られました。もちろん、10月の高校生サミットがあったのですが、その他でも大勢来ていただきました。

12月にも、5日に数年前からですがブルネイ・ヤヤサン高校の生徒6人と校長先生らが、来館されました。17日には国際協力



センターの事業で、日系アメリカ人大学生が50人が来られました。また、26日には中国山東省青島地震局の局長さん等10人というように、多くの皆様がお見えになりました。「稲むらの火の館」が世界へ向けても津波防災の情報発信の拠点に位置づけられていると感じました。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

*記念館だけの入場は無料です